

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷口小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	国語科においては、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、算数科、社会科、理科においては、市の平均を下回るなど課題が見られたので、ICTを活用した繰り返しの学習や家庭での学習を充実させていく。また個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。	
思考・判断・表現	国語科、算数科においては、全般的に良好な結果が得られたので、今後も引き続き、授業の中で自分の考えをもつための時間を十分確保し、ペアでの対話や小グループでの対話を取り入れて表現する活動を重視していきたい。あわせて、次年度はコミュニケーションの育成を通して、互いに認め合い、自分の考えを表現できる子の実現に向けて取り組んでいく。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 算数の「数と計算」領域において、基礎的な計算の力が十分に身につけていない。また、「図形」領域の知識・技能に課題が見られる。</p> <p><指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。</p>	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサプリ」「問題集等のドリル類」を活用し、基礎的な計算や図形の問題の反復・習熟に取り組む。その際、児童の学習状況、学習履歴を確認し、計画的に学習に取り組む。【朝学習の時間に20分の実施】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 国語の「読むこと」、算数の「変化と関係」「データの活用」領域の正答率が低い。</p> <p><指導上の課題> 「自分の考えをしっかりとつための時間の確保」や「考えたことを的確に表現する活動」の設定が不十分である。</p>	⇒ 授業の中で、自分の考えをもつための時間を十分確保する。考えたことはしっかりとノートに表現したり、ペア対話、小グループ対話を取り入れて表現したりする活動を多く取り入れる。【毎授業で実施】【さいたま市学習状況調査「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	朝の帯の時間や授業の始め、家庭学習等で「ドリルパーク」「スタディサプリ」「問題集等のドリル類」を活用し、国語科の言語に関する事項や計算の問題の反復・習熟に取り組むことで、基礎的な学力を身に付けることができた。国語科における言語事項の習熟については一定の効果が見られたが、算数科の基礎的な計算問題の技能については課題を残した。
思考・判断・表現	B	授業の中で、自分の考えをもつための時間を十分確保し、考えたことはしっかりとノートに表現したり、ペアでの対話、小グループでの対話を取り入れて表現したりする活動を多く取り入れることで、思考力表現力を伸ばすことに一定の効果が見られた。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は9割を越えており、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の主語・述語の関係をつめる問題に課題がみられた。解答類型をみてみると、述語に近い部分にある単語を主語と捉えている児童が多く、主語に対する理解が不十分であると考えられる。算数では、除数が小数の場合の割り算の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、計算のアルゴリズム自体は理解しているものの、除数を整数に直して計算することの理解が不十分であると考えられる。「児童質問」において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」における肯定的な回答の割合は87.5%であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。	
思考・判断・表現	国語の自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題に課題がみられた。また、算数では速さの問題で、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題に課題がみられた。このことから理由を筋道立てて説明することを苦手としていると考えられる。「児童質問」において、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」における肯定的な回答の割合が76.8%であった。授業の中で自分の考えをまとめる場、発表する場を多く設け、その振り返りを確実に行う学習を今後も継続していく必要がある。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語科においては、全般的に概ね良好な結果が得られた。特に「言語に関する事項」などの基礎的な学力は着実に身に付けることができた。一方、算数科では、「数と計算」「図形」領域、理科では「地球」領域において、課題が見られた。学習状況に関する生活習慣調査では、「社会科、理科の授業内容はよくわかりますか」の質問に対して肯定的な回答が9割と良好な結果が得られた。	
思考・判断・表現	国語科においては、市平均と比較して、全般的に概ね良好な結果が得られた。課題となっていた「読むこと」についての領域が改善された。しかし、算数科においては、「変化と関係」「データの活用」領域において課題を残した。また、社会科、理科においては、全般的に課題が見られたが、「主体的対話的で深い学び」に関する生活習慣調査では、「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対して、肯定的な回答が9割と良好な結果が得られた。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」「スタディサプリ」「問題集等のドリル類」を活用し、基礎的な計算や図形の問題の反復・習熟に取り組むことができている。今後も、児童の学習状況、学習履歴を把握し、日々の授業や朝学習の時間等で、計画的に取り組んでいく。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科の授業で、自分の考えをもつための時間を十分確保し、考えたことをノートに表現したり、ペア対話、小グループ対話を取り入れて自分の考えを表現したりする活動を多く取り入れることができている。話し合い活動を通して、意欲的に学習に取り組む姿が多くみられるようになってきている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)